

議員視察レポート後編

～海なし県の温泉地で、トラフグの養殖を視察！～

前回に引き続き、5月24、25日に行われた長野県視察の後編をお伝えします。

同僚議員から養殖事業の視察要望を受けて調べたところ、小規模ながら近隣の遠山温泉郷での事例があつたため、視察コースに加えた。

遠 山郷は、飯田市の奥座敷として意識しており、遠山側断層と赤石断層が交差する塩化物温泉がある。

道の駅遠山郷に『かぐらの湯』、飲食店、野菜や加工品の店舗、養殖施設が集約されている。養殖施設を運営する飯田市南信濃観光公社の酒井事務局長より説明を受けた。

ト ラフグの試験養殖事業は2011年より取り組んでいる。

その後の新聞記事では目標どおり今年12月から『秘境遠山の神ふぐ』として隣接するレストランのコース料理として提供されるようだ。

備としては直径3・5mと2・5mの養殖水槽を有し、生育度合いによって水槽を移し替えている。水処理水槽と組み合わせ、温泉水循環をさせて利用している。温泉によるメリットは、水温低下に伴う食欲低下がないため、個体の成長が早く、出荷までの時間が短くて済むことだそう。

設 備としては直径3・5mと2・5mの養殖水槽を有し、生育度合いによって水槽を移し替えている。

水処理水槽と組み合わせ、温泉水循環をさせて利用している。温泉によるメリットは、水温低下に伴う食欲低下がないため、個体の成長が早く、出荷までの時間が短くて済むことだそう。

採 算については、2500尾が最小ではないかとのこと。遠山郷の新たな観光資源となり、地域全体でトン

トンになればよいと見込んでいるようだ。人件費をかけないために、隣接する食事処の調理員が個人的趣味もかねて養殖事業を担当し、事務局長が補助員として活動している。給餌は一日3〜4回である。

行錯誤の最中で、養殖環境が原因とは見られない全個体

試 行錯誤の最中で、養殖環境が原因とは見られない全個体

の死亡や、台風の影響で長時間停電がもたらした循環ポンプ停止による200尾の死亡など、困難が絶えない。循環ポンプの交換により電気料が半分になったり、温泉成分の中に成長を妨げる成分があつたため人工海水で補ったりする工夫もしている。

(文章：木村諭史)



トラフグ養殖水槽を視察する議員たち
温泉を循環ろ過させて活用している。